



うちのイチ押し!

大阪歴史  
博物館

特別展

～国芳、広重、国貞、豊国、英泉…

江戸・明治の浮世絵師たちが描く～

# ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展

【開催期間】 7月27日(土)～9月8日(日) 9:30～17:00(会期中の金曜日は20:00まで)

※火曜日休館、但し8月13日(火)は開館

※入館は閉館の30分前まで

日本では、昨今猫の人気の高まっています。ネズミ除けとして大陸から持ち込まれたとされる猫は、江戸時代の頃にはすでに多くの人々の懐に潜り込み、広く親しまれるようになっていきました。浮世絵の題材にもしばしば取り上げられ、当時一大ジャンルであった美人画の片隅に登場してからは、擬人化され役者絵やおもちゃ絵の登場人物となって愛されたり、おどろおどろしい化け猫として人々を震えさせたりと多彩な活躍を見せます。

本展では、無類の猫好きで知られる歌川国芳をはじめ広重、国貞、豊国、英泉ら浮世絵師の作風の個性を楽しむとともに、人々が猫とどう関わってきたのか、また人が猫にどのようなイメージをもっていたのかを読み解きます。また、大阪会場特設コーナーとして、飼猫の取り扱いに関する古文書や江戸時代の土人形といった資料なども紹介します。

施設情報・観覧料等はP11をご確認ください。

☎6946-5728 ☎6946-2662



歌川芳藤  
「五拾三次之内猫之怪」大判錦絵  
弘化4(1847)年 個人蔵

おもちゃ絵を多く手がけた歌川芳藤による「寄せ絵」で、大小の猫が寄り集まって巨大な化け猫の顔を作っています。題材は三大化け猫のひとつ、岡崎の化け猫で、歌舞伎「獨道五十三驛(ひとりたびごじゅうさんつぎ)」において、老女に化けた化け猫が、破れた御簾(みす)から飛び出してくる場面を描いています。



## おおさか歴史探訪 136

大阪の史跡や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

### 北浜長屋 — ビルの谷間に咲きつづける長屋建築 —

北浜。大坂城下町の中心であった船場北辺の土佐堀川に臨んだこの地は、唐物や薬種、材木などの取引で賑わった場所でした。明治11(1878)年、大阪株式取引所がここに設立されると、周辺は株の仲買業の社屋の集まる場所となりました。大阪市中央公会堂の建設資金を寄付したことで広く知られる株の仲買人の岩本栄之助が「北浜の風雲児」と称されるように、北浜といえば「株」のイメージが定着しました。

ところが現在、北浜といえばおしゃれなカフェやスイーツがまず連想されます。その立役者は明治45(大正元・1912)年に建築された「北浜レトロビルディング」の存在といえるでしょう。その隣のビルを挟んで東側に一見したところ土蔵を思わせる木造の建物が建っています。こちらが今回紹介する北浜長屋です。建てられたのはレトロビルディングと同じ年で、もとはどちらの建物も株に関係した会社の建物でした。

北浜長屋はその名のとおり2軒がセットになった2階建の長屋建築です。外観の特徴は正面の土蔵造にあり、2階の外壁は黒漆喰塗り、窓には観音開きの鋼製防火戸がはまっています。その一方で、防火戸の内側には西洋風の上げ下げ窓があり、東西2つある玄関上にはペディメントと呼ばれる三角形をした飾りが付いています。この建物を裏の土佐堀川の方から眺めると京町屋風の顔をしており、3階建に見えます。これはかつて土佐堀川から船で地下階に乗り付けられるようにしていたためです。

北浜長屋は所有者の文化財への理解のおかげで、建物の特徴を活かした改修がなされカフェなどとして賑わっています。昨年度、国の登録有形文化財に登録されました。

(大阪市教育委員会 文化財保護課)



北浜長屋(中央区北浜1丁目1)